

科目名	基礎演技Ⅳ						年度	2024	
英語科目名	Basic Acting Ⅳ						学期	後期	
学科・学年	声優・演劇科 1年次	必/選	必	時間数	70	単位数	2	種別※	実習+実技
担当教員	室生春、磯辺万沙子	教員の実務経験		有	実務経験の職種		俳優		
【科目の目的】 俳優としての技術能力の向上を目指す。そして、基本を大切に授業を引き続き行う。舞台総合実習に繋げるための準備として戯曲を様々な観点から考察する。演劇は共同作業であることから、作品を作り上げて行く過程で生ずる様々な問題を、お互いの立場を尊重しながら解決していく方法を学び、演劇を通して、個人的にも集団的にも、尚且つ肉体的、精神的に成長したことを実感できる授業を目指す。									
【科目の概要】 個々の資質を伸ばしながら、呼吸法・発声法・発音訓練、それに伴う身体訓練などを含む演技の基礎を学ぶ。									
【到達目標】 表現の内容を他者（観客）に正確に伝えられる技術の基礎を、より発展した形として身につけることを目標とする。様々な戯曲に触れ、演劇的な知識を広めることはもちろん、演劇の作り方によって協働の意味を知り、作品を創り上げることにより協調性を養う。また、役者のあり方を学ぶことによって自分自身にできることを実践し、精神と肉体を鍛え上げる。すべては観客のためであることを考えられる人間になることを最終目標とする。									
【授業の注意点】 学生、教員がお互いを尊敬しあい、和やかに、かつ礼儀正しく行われることを基本とする。理由なき欠席・遅刻は認めない。携帯電話、スマートフォンの電源は切る、私語は慎む等、社会の常識的な行動は常に意識すること。課題には積極的に取り組むこと。社会性がない者は役者としても大きな欠陥があることを理解すること。成果も大切だが、取り組む姿勢を最も大事にしなければならない。また、授業時数4分の3以上出席が必須。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	腹式呼吸が完璧にできており、長い台詞・短い台詞を正しい発声法とブレスポイントを駆使することができる。	概ね腹式呼吸ができてはいるが、息の量が少なくなった時に咽頭への力みが生じる発声をしている。	腹式呼吸を理論的に理解しているが、訓練不足により結果が出ていない。	腹式呼吸を理論的に理解できず、訓練方法の意図も理解できていない。	腹式呼吸やその訓練の重要性を理解せず、授業内において出席意欲を感じられない。				
到達目標 B	初見の課題において、母音・子音・鼻濁音・母音の無声化を的確に区別し、台詞として表現することができる。	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化を自力で区別することができる。実践することができる。	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化の理論を理解することができるが、自力で区別することができない。	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化の理論を理解することができず、区別していることができない。	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化の理論を理解しようとして、授業内において出席意欲を感じられない。				
到達目標 C	戯曲の内容・登場人物・作者の意図を自分なりに解釈し、作品について語るができる。	戯曲の内容・登場人物・作者の意図を自分なりに解釈し、作品のテーマを理解している。	戯曲の内容・登場人物の相関を理解している。	戯曲の内容・登場人物の相関を理解しようとする意欲は見えない。	戯曲を読解しようとする意欲がない。				
到達目標 D	自分の役割を理解し、自己都合を一切感じさせず他者の感情に訴えかける表現を行うことができる。	自分の役を理解し、他者の感情を考慮しながら“役としての”コミュニケーションを図ることができる。	自分の役を理解し、他者の感情を考慮し用としているが“役としての”コミュニケーションを図ることができない。	自分の役を理解できず、他者と目を合わせてコミュニケーションを図ることができない。	自分の役を理解しようとして、他者とコミュニケーションを図ろうとしない。				
到達目標 E	遅刻・欠席をしない	遅刻はあるが欠席は少ない	遅刻・欠席が少ない	遅刻・欠席が多い	遅刻・欠席が非常に多い				
【教科書】 必要に応じて随時、課題のテキスト及び台本配布。パソコン・タブレット・スマートフォンなどのモバイルツール、参考資料等は授業内で指示する。									
【参考資料】 NHK日本語発音アクセント辞典									
【成績の評価方法・評価基準】 小テストおよび期末テストにより採点。授業への積極性と参加態度を評価する。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		基礎演技Ⅳ			年度	2024
英語表記		Basic Acting Ⅳ			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	(短編台本) キャラクターの生い立ちなど、役柄の必然を解釈する。	身体のアップ 基礎トレーニング 日常に近づける	1 呼吸法	発声メソッドを理解し実践する	2	
			2 朗読	2種類の音楽でイメージを膨らませる		
			3 群読	情景描写表現に必要な想像力について学ぶ		
2	(短編台本) 役を作る上で必要なことを理解する		1 呼吸法	発声メソッドを理解し実践する		
			2 朗読	2種類の音楽でイメージを膨らませる		
			3 群読	情景描写表現に必要な想像力について学ぶ		
3	(短編台本) 役柄を考えた演技表現を目指す		1 呼吸法	発声メソッドを理解し実践する		
			2 朗読	2種類の音楽でイメージを膨らませる		
			3 群読	情景描写表現に必要な想像力について学ぶ		
4	(短編台本) 総合的なパフォーマンスの重要性を理解する		1 呼吸法	発声メソッドを理解し実践する		
		2 朗読	2種類の音楽でイメージを膨らませる			
		3 群読	情景描写表現に必要な想像力について学ぶ			
5	台本配布。作品を理解する。	1 本読み	役の世界観を理解する			
6	オーディションにより配役を決定し、自分の役に向き合い研究する。	1 配役	役を理解し、他者を受け入れること			
7	作品をつくる際の役割、分担などを理解する。	1 本読み	役を理解し演じる			
		2 立ち稽古	パーソナルスペースを理解する			
		3 交流稽古	相手の呼吸に合わせる			
8	台詞の意味を考え、与えられた役を理解する。	1 本読み	役を理解し演じる			
		2 立ち稽古	パーソナルスペースを理解する			
		3 交流稽古	相手の呼吸に合わせる			
9	それぞれの場を考察し、シーンを細かく分析する。	1 立ち稽古	パーソナルスペースを理解する			
		2 交流稽古	相手の呼吸に合わせる			
		3 通し稽古	役を生きる			
10	各シーンを作り上げて行く過程を考える。	1 立ち稽古	パーソナルスペースを理解する			
		2 交流稽古	相手の呼吸に合わせる			
		3 通し稽古	役を生きる			
11						
12						
13						
14						
15						

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等